

知事記者会見（平成21年5月11日）

●知事発表

（1）新型インフルエンザへの対応について

●幹事社質問

（1）日本ロシア知事意見交換会に向けて

（2）5月臨時議会に臨むにあたって

●その他の質問

（1）新エネルギーへの取り組みについて

（2）秋田ソウル便について

（3）日赤・婦人会館跡地の再開発について

時間：12：57～13：33

場所：県庁プレゼンテーションルーム

(幹事社)

時間前ですが始めます。知事から発表事項があるそうなので、まず発表をお願いします。

(知事)

はい、それでは私からは、新型インフルエンザ対策について、県民の皆様にお知らせということも含めましてお話をさせていただきます。

5月9日、デトロイトから成田空港に到着いたしました日本人男性3人が新型インフルエンザに感染していることが確認されましたが、国は空港における検疫の段階で対処したものであり、国内で患者が発生した場合に当たらないと発表をいたしております。

国では、引き続き水際対策等に徹底して取り組むとともに、国内での患者の発生に備えた準備を進めることとしております。県では、4月28日に秋田県新型インフルエンザ対策危機管理連絡部を設置し、全庁的に取り組んでおります。現在、各保健所及び全市町村に発熱相談センターを設置し、県民からの相談に応じているほか、まん延国からの帰国者に対する健康監視の実施や健康環境センターにおける検査体制を整えた訳であります。

県民の安全・安心のため、引き続き最善を尽くすとともに、県民の皆様迅速に情報を提供してまいりますので、警戒を怠らない一方、冷静な行動をお願いいたします。

重ねてのお願いになりますが、まん延国等に渡航歴などがあり、症状に疑いがある場合は、必ずお近くの発熱相談センターへご相談くださるようお願いをいたします。

私からは以上であります。

(幹事社)

新型インフルエンザについて質問ある社はどうぞ。

なければ、幹事社から2点伺います。

明日、日ロ知事意見交換会というのが都内であるそうなのですが、シーアンドレールをはじめ、対ロシアというのが秋田の経済にとって非常に重要な位置づけにあると思います。明日の会議ではどういった話をしてこようと思っているのか、あとその意気込みを伺えればと思います。

もう1点、来週臨時議会があるんですが、初めての議会ということで所信表明があると思うんですけども、その意気込みと、あと補正予算が出るようなんですが、その内容について決まっている部分があったらお願いします。

(知事)

まず、日ロ知事意見交換会についてですが、プーチン首相もおいでになるようです。このような会議は平成9年まで日ロ知事会議という形でなされていたようですが、その後、こういう形ではなかったようです。ロシアの地方政府代表が10名程度、来日されるということに日本の知事会も対応するというので、せっかくの機会でございますので私も手を挙げさせていただいた訳であります。

ご承知のとおり、秋田市はウラジオストック市と姉妹都市でありました。そういうことで、ロシアとの関係については市長時代から大変重きを置いて、ロシアに何回か訪問いたしております。特に秋田の場合、ロシアとは大変に近い間柄として、あるいは、今後のロシアの発展と呼応しながら秋田の発展も望めるという状況が見える訳でございます。具体的な話になりますと、例えばシーアンドレールの構想、これは今の経済環境の中では若干足踏みをしている状況ですが、こういう構想についても短い時間ではありますが、お話をさせていただきたいと思っています。

また、秋田は木材等々の輸入について、これからは今までとは違った様々な形で拡大するという状況にもある訳であります。そういうことで、この港を活用したロシアとの交易について全般的に説明、あるいはプレゼンスを高めたいと思っています。

あと、今後、(ロシアとの)観光交流等についても望めるのではなかろうかと思えます。これは秋田だけの問題でございませぬけれども、ロシアに対する渡航手続きを簡略化していただきたいということ、これは他の地域からも出ておるようでございますが、いずれにしても秋田にとって、ロシアは大きなターゲットになりますので、大いに売り込んでこようかなと思っております。また、プーチン首相の演説も聴けるようであります。

もう一つですが、5月の21日、22日に臨時会の開催をお願いをしております。初めての議会でありますので、淡々とこれからの秋田県の県政発展、「けんせい」といっても、政治の「県政」と勢いの「県勢」と両方あるかと思えますけれども、両方とも関連する訳であります。秋田「けんせい」の発展ということについて、私の選挙の際のマニフェスト等を踏まえて、できるだけわかりやすいような形で議会にお話をしたいと思っております。これから鋭意、原稿の調整にかかろうかなと思っております。

これと同時に、国も補正予算の関係がほぼ目途がつきそうでありますので、国の補正予算とも絡めて経済対策を中心にした一定の補正予算を組んでまいりたいと思っております。この

補正の内容を大きく分けると3つになると考えています。1つは国の補正に伴います公共事業についてでありまして、これは今、最終的な調整を行っておりますが、予算計上の見込み額としては100億円を超える規模になるのではなかろうかと思えます。この問題は、当初予算の公共事業とのバランスも踏まえて、できるだけ早期に成果が上がるといふもの、また、国の直轄事業の関係、国が経済対策としてやる部分についての関連もある訳であります。

もう一つは、雇用対策についてであります。これは、雇用関係のいろいろな県基金がございまして、それを活用したものでありまして、これは公共事業とは違って、こちらでやるという事よりも募集しながら、いろいろなニーズを探りながらということとございまして、これも10億円以上の規模にはしたいなと思って最終調整をしております。

あとは、経済対策ではありませんけれども、インフルエンザ対策の少し足りない部分について、万全を期すために補充をするというもの。この3つが5月の臨時会の補正予算の内容になる予定であります。

(幹事社)

幹事社から1点伺います。今の補正予算のインフルエンザ対策についてなんですが、足りない部分というと具体的にどういったことになるのでしょうか。

(知事)

いわゆるタミフル等の薬品の備蓄です。あと、今、最終調整していますけれども、実際、感染したかどうかの検査の・・・。

(知事公室次長)

検査キットです。

(知事)

検査キットが足りないということで、できるだけ万全を期したいということです。

(幹事社)

こういったものの購入は、大体予算規模としてどれぐらいになるのでしょうか。

(知事)

まだ最終調整してませんが、やはり億円単位にはなろうと思えます。

(幹事社)

例えば、タミフルでいうと何千人分とかそういう単位なんでしょうか。

(知事)

これは、今、最終調整をしています。現時点で備蓄している部分に加えて一定のところまでということで、ここ一両日中に最終的に調整を図りたいと思えます。

(幹事社)

5月の臨時議会と日口会議の2点について質問ある社、どうぞ。なければ、ほかも含めて自由に質問してください。

(記者)

新型インフルエンザの対応についてですけれども、4月28日に危機管理連絡部を立ち上げて、健康福祉部では24時間体制で相談などを受け付けていたかと思うんですけれども、これまでの対応を振り返って、知事として卒直にどのようにお考えになっているかということと、さらにまだ改善できる余地っていうのがあるかどうかというのを教えていただければと思うんですが。

(知事)

今のところ、国の対応と大きく違うことはできない訳でありまして、国の対応に沿いながらということでもあります。秋田の場合は、秋田空港にソウル便の発着があるので検疫をしているという状況ではありますが、いずれ現場にはよくやってもらっていると思います。私も休み中ずっと連絡取り合っていました。何とかこれ以上広がらないようにと祈るばかりでありますけれども、これだけは、誰もこの後どうなるのかというのは、なかなかわからない状況でありますので、まずは県としては万全を期してまいりたいということになります。

もう一つは、これは大きな問題ですが、秋田市長として、保健所を持っていましたので、国の対応の基幹的なところがまだ決まっていないうですね。水際対策なんかは決まっていますけれども、これが本当にまん延した場合の様々な措置について、一定のルールはあるんですけれども、まん延した場合、治療するお医者さんのその経費はどうするのかとか、大きな規模になった場合、どこかの施設を使って仮の入院・隔離施設にした場合に、その管理は誰がやるのか、経費や責任体制はどうするのか、それに関わる人のお医者さん以外でも感染する可能性がでてきますので、そういうものについて、まだはっきりしてないというのが我が国の現状であります。

やはり、こういうところまできちっとしないと、いざというときに動けないということにもなるかと思っておりますので、これは多分どこの都道府県、あるいは保健所を持っている中核市以上の自治体も、こういう意識はあろうかと思っております。前から国には要望しているものもある訳でありますので、こういう点については基本的に自治体のみではできない問題であります。当面、そんなことは言っていただけませんので、それぞれの自治体で最大限のことをやる訳ですけれども、これからの課題ではなかろうかと思っております。

(記者)

もう一つなんですけれども、先程、アメリカの札幌総領事が来たときに、知事は、夏までには収まってくればいいなというようなお話をしていたかと思うんですけれども、この夏までにとというのは、これはどういった意味でおっしゃったものなんでしょう。

(知 事)

5月の連休は過ぎましたけれども、また夏休みの旅行シーズンになる訳であります。そして今度は夏を過ぎますと冬になって、当然寒くなる訳であります、夏の時点でこれが収まらないとなると今までのインフルエンザは、秋以降、寒くなるとやはり風邪もひきやすくなりますし、そういう時期に重ならないようにということでもあります。

もう一つは、旅行業者も含めて経済の方の足を引っ張るという状況が目に見えてきているのではなかろうかと思えます。そういうことで何とか、これが収まってもらいたいというような、そういう気持ちであります。

(記 者)

新型インフルエンザの関連で、例えば今後、国内での発生が確認された場合の県の対応についてなんですけれども、行動計画を見ますと、県民に対する外出の自粛要請であるとか、あとは集会の自粛の要請であるとか、非常に県民生活に深く関わる事柄が含まれていると思うんですが、こうした個別の対策について、今後、国内発生と同時に、県としては速やかに計画を実行に移すお考えなのか、現時点でのお考えをお聞かせください。

(知 事)

この件については非常に難しい要素もございます。というのは、専門家の中で鳥インフルエンザの状況がある意味ではシミュレーションしてやっている訳であります、ただ一部学者の間では、現在のところ弱毒性なので、そういうことに対しては慎重にした方がいいという話も一方である訳であります。しかし、私としては、この種のものについてはできるだけ最悪の場合もあり得るという前提でものを考えないといけないのではないのかなと思えます。

ただ、それがどのくらいの強制力を持たせるのかどうかというのはまた別の次元でありますけれども、このまん延の状況が地域、地域によってどうなるのかと、これも国の方で、例えばどこかの地域で起こったとき、全国一律にするのかどうかという、これについてもまだ議論があるところでもありますので、そういう動向も踏まえながらということでもありますけれども、やはり私はできるだけ楽観的に見ないようにしたいなど、ものによっては一時的に県民の皆さんにいろんな面で制約を課すことになる訳でありますけれども、万が一、大変な状況になると、これは取り返しつきませんので、できるだけ安全率を高く見ながらやっていかなきゃならない種類のものではないかと思えます。

(記 者)

新型インフルエンザに関しては、ちゃんとしたことがまだわかっていない状況だと思うんですけれども、そうしますと毒性をある程度こう判断するという・・・。

(知 事)

私が判断するとか県が判断するという話でないでしょうけれども・・・。

(記 者)

いずれその柔軟に対応なさるといふ。

(知 事)

これは全国的な流れが一つあるでしょうけれども、私としては、今、ヨーロッパが意外とその経済制約を受けることに大変神経とがらせて、ヨーロッパの国がどちらかというフェーズを上げないような抑え方してますね。それから、それが行き過ぎると今度は大変なことになる場合もある訳でありますので、やはり行政ですので、極めて冷静に客観的に判断をしなけりゃならないのではないかと思います。

ですから、この種のものについては、制約をしますと必ずマイナスの要素がございます。それをプラスには絶対できないんです。マイナスの要素があるということ觉悟の上でかからないといけないと思います。このマイナスの要素を役所がどうするんだとか、これはあとでどうするとか、これが一番だめなんでありまして、必ず行動制約はマイナスを伴います。そのマイナスを全体が享受するということがないとこの種の事に対する安全対策はとれないという、これが原理原則でありますので、私はやはりそこら辺を踏まえて判断すべきときはきちっと判断して、甘い判断ではないような形にしなければならぬと思っています。

(記 者)

ちょっと話題を変えるんですけども、秋田県の海岸線に、1,000基の大型風車を建設して、自然エネルギーの拠点にしようという構想があるんですけども、知事は選挙の公約で新エネルギーの先進県づくりを進めると、盛り込まれているんですが、この構想についてはどのように受けとめていらっしゃいますか。

(知 事)

新エネルギーについては様々な種類があり、秋田も風力に適した場所が結構ある訳であります。ただ、1,000基というのは何と言いますか・・・象徴的な表し方であろうと思います。また、すべての自然エネルギーがそうなんですけれども、複眼的に見ないとだめですね。片方だけから見ると、必ず片方のマイナスの要素がある。風力の場合、技術的な様々な要素が大変ある訳であります。費用の問題ばかりじゃなくて技術的な要素もあるし、電力全体のバランスの問題もあるし、そういうことを一つ一つ踏まえながらやっていかなきゃならないと。ですから、全体として使えるところには大いに使っていくべきだなと、そう思っています。

(記 者)

実現に向けてですね、県としてバックアップしていくというお考えは。

(知 事)

それはですね、ある程度以上になりますと全体の電力の品質の関係になる訳です。ですから原子力発電だとか、水力だとか、火力だとかと全部ミックスして使いますから、そういう場合のその種の電力の技術的許容度なんかもこれ非常に大きな問題になる訳でありま

すので、それで、結論的に言いますと電気は日本全国全部ネットワーク化されていますので、大きな電力を発生させて自然エネルギーを一般既存電力にぶち込むということになりますと、国全体レベルの電力行政との関連がかなり出てきます。ですからやっぱりこういうことも睨みながらだと思います。基本的には、自然のその体系を壊さない範疇で大いに自然エネルギーは使っていくべきだと思います。

(記者)

先程のインフルエンザのお話なんですが、知事のお話を総じてみますと、弱毒性だから云々という話もありますけれども、より慎重に対処・対応をすべきというお考えだということでしょうか。

知事)

そうですね。気をつけるにこしたことはないということだと思います。ただ、現在は弱毒性でも、株の変異というのは当然ある訳ですからね、そこら辺が、県だけの判断でできるかという、これは国等の全体的な判断の中で対応すべきことですが、知事としての裁量権の範囲でやるとすると、できるだけ安全をとりたいという、そういう感じです。

(記者)

5月議会に提出するのは、細かい話は後で担当課でいいと思うんですが、いわゆるこのタミフルの備蓄と検査キットの購入費ということになる・・・。

(知事)

そういう形になると・・・。

(知事公室次長)

防護服も。

(知事)

防護服も入っています。

(記者)

このタミフルの備蓄とか検査キットの購入というのは、いわゆる今回の新型インフルエンザに完全に対応したもので、これまでの計画からすると特別にということなんですか。

(知事)

これまでは予算の制約もあったでしょうから。最大限まではいかないとしても、少しでもある意味では想定した範囲内で行き渡るようにとすると、一定の数字が出てくるのかなと思います。

(記者)

5月議会に、予算以外の人事案件とかを出す予定は今のところございますでしょうか。

(知 事)

場合によってはあります。もうすぐですけれども、まだ状況を見ているというか、まだ思案中のところもあります。

(記 者)

ロシア絡みのお話を1点お聞かせください。

上京されて個別の会談というのがあるかどうか、あるいはその協定、覚書、そういったものが予定されているのかどうかお願いします。

(知 事)

今のところはですね、いきなり5月12日の日に意見交換会に入るようではあります。ロシア側の参加者ももぎりぎりまで固まりませんでした。ロシアとのやり取りはラフで、決まらないで突然変わるということは普通にあり得ることなものですから、今のところは10時から意見交換会、その後、両方の代表による記者会見、ここら辺までしか情報は入っていません。ロシア側が10人。ロシア側は知事でない人も入っています。沿海州の知事も来られるようです。

(記 者)

秋田県知事として個別にそのお会になられるような予定はございますか。

(知 事)

それはございません。あちらの方も、これしか日程はセットできなかつたようであります。

(記 者)

それからもし可能ならば、先程の予算、総額が大体このくらいというのは、わかればお教えてください。

(知 事)

まだちょっとそこまでは・・・(公共事業として)100億円以上、雇用対策は10億円程度というようになって、ちょっとまだこれについて最終調整を今やっていますので。

(記 者)

ソウル便なんですけれども、4月が非常に搭乗率が落ち込みました。最近好調だったのが40%台になりまして、今月も非常に厳しい状況だと聞いております。この現状についてどう認識されているかということと、以前に非常に低迷したときに寺田知事が訪韓で継続を要請したりということございましたけれども、知事として、考えている対応がありましたら是非お聞かせしていただきたいと思います。

(知 事)

実はその、ウォンが安くなってましてですね、そういう意味ではあちらからこちらに来るという形が非常に（費用が）高くなっているということです。それと、今度は、今のインフルエンザの問題で、ダブルでこれが効いてるような感じがいたします。そういうことで、多分、韓国便については、全体的に地方空港は落ちている訳であります。秋田の場合、実は秋以降、修学旅行が組まれている予定もかなり出てきております。そういうことで、何とか現在の状況、秋田だけの状況ではありませんけれども、一刻も早くこのインフルエンザが収まることによって、大いにこの旅行を奨励できる訳であります。

今のところは、民間レベルの旅行会社ができるだけ割安、逆に言うとウォンが安いのでこちらから行くのは非常に割安なものですから、いろんな企画商品を組んで頑張るということでそこら辺は関係者ともよく話し合いはしながら進めております。

(記 者)

今現在、例えば大韓航空の方から、搭乗率の低迷ということで今後の運航について、どうしたいとかいうお話というのは来ているのでしょうか。

(知 事)

今現在は、直接は来ておりません。秋田の場合は修学旅行の関係、市町村振興協会が21年度総額2,500万円、修学旅行のほか青少年の交流に助成することになりましたのでそれについては非常に評価をいただいているものと思っております。ですから修学旅行等については青森の方があまりなくて、秋田がかなり具体的な見通しが出ていると、そう大韓航空筋からは聞いております。

(幹事社)

あの、そろそろ時間ですが、じゃあ最後1人。

(記 者)

先日のあの会見でも出ていたようですけれども、中心街区の構想なんですけれども、あの3点お伺いします。

昨日、安藤忠雄さんが来ていまして、知事もお会いになったということですのでけれども、設計の進捗状況などの説明はあったのでしょうか。

あともう一つ、安藤さんが全体のデザインを手がけるというふうにして組合が美術館の設計を県に依頼したんですけれども、これが前知事の寺田典城知事が東京に行って直接会談をして全体まで頼んで来たということでこれまできている訳ですので、安藤さんが全体のデザインに関わるという方向性は今後変わらないのでしょうか。

あともう一点、秋田市の穂積市長が市のにぎわい交流館の機能について、県の美術館と併設するなり内容をちょっと変更する必要があるんじゃないかとおっしゃっていて、県と今後協議するという考えを示しているんですけども、そのことについてどういうお考えかということをお伺いします。

(知 事)

昨日、安藤さんと穂積市長も一緒にお昼、稲庭うどん食べたかな。基本的には、安藤さんからは、いずれ美術館の知名度を全国的に高めるための幾つか、正式な提案ではないんですけども、若干お考えをお聞きしました。それについては秋田市長の穂積さんも私もなるほどと思った次第であります。安藤さんも建物で人を呼ぶ時代ではないということで、藤田嗣治の全体について、いろんな時代との流れの中でどうやったら興味を持っていただけるのかという、そういうソフトな面も含めて考えたいという話でありました。

それから、デザインの関係をどういうふうにとらえるのかですが、デザインを全部やるのか、片方の一番よく見える美術館のデザインがある程度決まってくると、それに伴って、市の方の設計もそれとの関連でいろんな調整は出てくると思います。

安藤さんが全部絵に描くのかについては、私そこまでまだ説明受けてませんが、にぎわい交流館はにぎわい交流館として、全体を統括する中で当然そこは取り入れて設計しますので、そう異質なものにはならないかと思えます。

それと、一部にぎわい交流館については、今の基本的な機能そのものは持ちながらも、穂積さんとして付加したいものがあるようなお話ですが、市の出先というか、サービスセンター的なものも入れたいということ、それを市としてやるのであれば別におかしいことではない訳であります。いずれ、昨日はご飯を食べながら県と市と十分連絡を取っていいものをやろうと、そういうことで安藤さんとも市長ともお別れしたという、そういう状況であります。

(記 者)

最後の点なんですけども、穂積市長が言っている構想というのは、美術館の中に、にぎわい交流館を取り入れてもいいんじゃないかというようなことを言ってるんですけども。

(知 事)

かなり前に言っていたけれども、今は全然それは話してないな。

(記 者)

それについて県に可能性を含めてという話をしているんですけど、それはないんですか。

(知 事)

前にはそういうお話もしてましたけれども、最近そういうこと聞くことないな。最近は何聞いてません。

(幹事社)

じゃああの時間になりましたんで以上で終わります。ありがとうございました。